

川崎病の冠動脈病変形成例におけるガンマ グロブリン静注療法の効果の検討

山形大学小児科

岡田 昌彦、佐藤 哲雄

要約：川崎病におけるガンマグロブリン静注療法（I V G G 療法）の好中球機能およびC R Pに対する効果に検討した。投与後1週目における好中球数はG G 400群ではA S A群、G G 100群あるいはG G 200群よりも有意に減少した。一方、I V G G 療法を施行したにも拘らず冠動脈病変を形成した例では好中球数増加およびC R Pの陽性が持続しておりA S A群との間に有意差はなかった。

見出し語：川崎病、冠動脈病変形成例、ガンマグロブリン、好中球、C R P

対象および方法：昭和61年1月から平成2年12月末日の間に山形大学および関連病院の小児科にて診断された川崎病の初発患者95名である。患者の発症年齢は3か月から4歳まで、男児48名女児47名であり、入院時の病日は発症第3病日から第7病日であった。川崎病の診断後、アスピリン30-50mg/kg経口投与およびスルフォ化ガンマグロブリンあるいはP E G処理ガンマグロブリンを100（G G 100）、200mg/kg（G G 200）または400mg/kg（G G 400）をいずれも第7病日以内に5日間静脈内投与が行った。

これらの患者について治療投与前、投与後3日目、投与後1、2および3週目に白血球数、好中球数、C R Pを検討した。また、冠動脈病変については入院時から週二回の割合で、心断層エコー

により観察した。冠動脈病変の診断は正常小児冠動脈の線状のecho-freespace像を基準とし、内径が3ないし5mmの場合を拡張とし、また5mm以上のものを動脈瘤と診断した。

統計：有意差の検定はt-testを用いた。なお、図にはMean±S E Mを示した。

結果：アスピリン単独治療群（A S A群）は47名アスピリンおよびガンマグロブリン（G G ）100mg/kg/日、5日間治療群（G G 100群）は12名アスピリンおよびG G 200mg/kg/日、5日間治療群（G G 200群）は16名、アスピリンおよびG G 400mg/kg/日、5日間治療群（G G 400群）は20名であった。

冠動脈病変形成についてみるとA S A群のうち4名が冠動脈瘤を形成し、9名に冠動脈拡張がみ

られた。G G 100群は1名が冠動脈瘤を形成し、1名に一過性の冠動脈拡張がみられた。G G 200群は1名が冠動脈瘤を形成し、6名に一過性の冠動脈拡張がみられた。またG G 400群では2名に冠動脈瘤の形成を認めまた1名に冠動脈拡張がみられた。

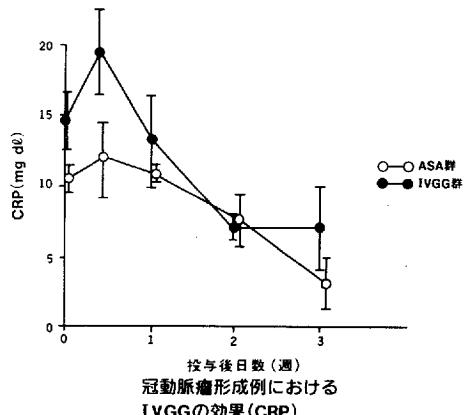
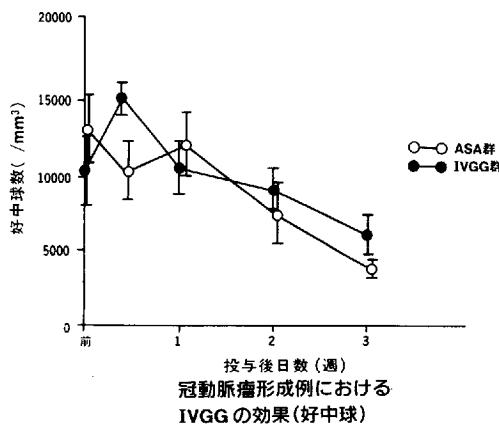
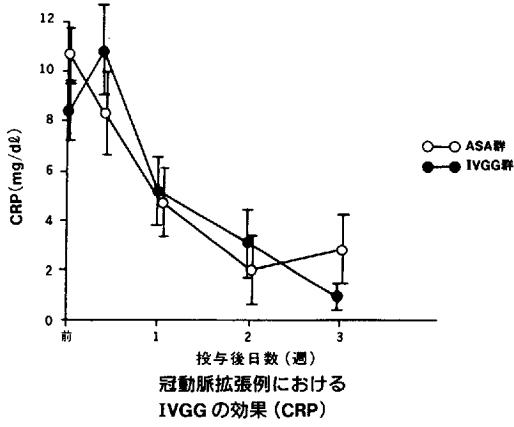
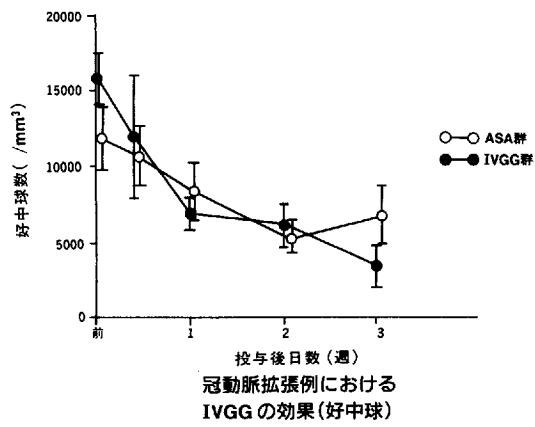
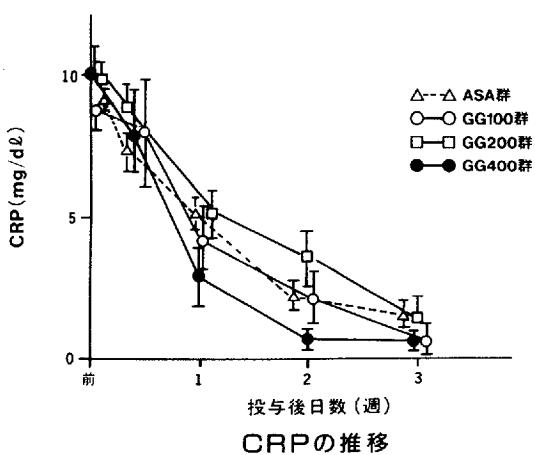
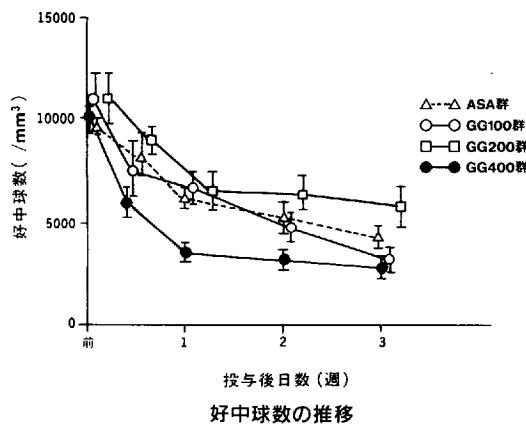
I V G G療法と好中球数の推移。

I V G G開始前における好中球数はいずれの群も増加していた。I V G G投与後3日目の好中球数はG G 100群およびG G 400群はA S A群より有意に減少した($p < 0.01$)。I V G G投与後1週目における好中球数は、G G 400群はA S A群G G 100群あるいはG G 200群よりも($p < 0.025$)それぞれ好中球数は有意に減少した。

C R Pはいずれの群においても治療開始後1週目までに速やかに低下し、以後漸減した。次ぎに冠動脈瘤あるいは冠動脈拡張を形成した患者の好中球数およびC R Pについて、A S A群とI V G G

群全体をまとめて比較検討した。冠動脈瘤あるいは冠動脈拡張など冠動脈病変を形成した例では、A S A群およびI V G G群はいずれの群も好中球数増加が持続しI V G G療法による減少効果は認められなかった。またC R Pについても同様であった。

考察：I V G G療法は臨床症状を軽減し冠動脈病変の発症頻度を減少させると報告されている。今回の検討でG G 200群に冠動脈拡張例が多かったのは意外であった。またG G 200群では好中球数もA S A群に比較して減少はみられず、病態の上からもその効果は不十分と思われた。一方、I V G G療法にも拘らず依然として冠動脈病変を形成する集団が存在することが示され、こうした例では好中球数増加およびC R Pの陽性が持続していた。今後こうした集団におけるリスクファクターの検討また治療法の検討が必要と思われる。



↓ 検索用テキスト OCR(光学的文書認識)ソフト使用 ↓

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります ↓

要約:川崎病におけるガンマグロブリン静注療法(IVGG 療法)の好中球機能および CRP に対する効果に検討した。投与後 1 週目における好中球数は GG400 群では ASA 群、GG100 群あるいは GG200 群よりも有意に減少した。一方、IVGG 療法を施行したにも拘らず冠動脈病変を形成した例では好中球数増加および CRP の陽性が持続しており ASA 群との間に有意差はなかった。